

令和7年度 第4回
希望郷いわてモニターアンケート

ひとにやさしいまちづくりに関する意識調査結果

令和7年10月
岩手県保健福祉部地域福祉課

ひとにやさしいまちづくりに関するアンケートの結果について

I アンケートの趣旨

県では、「すべての人が個人として尊重され、自らの意思に基づき自由に行動し、あらゆる分野の活動に参加する機会が確保される地域社会の形成」を目指して、平成7年に「ひとにやさしいまちづくり条例」を制定し、誰もが利用しやすい建物、交通機関等の整備の促進や県民の方々に対するひとにやさしいまちづくりについての普及啓発を進めてきたところです。

本調査は、今後の県が進めるひとにやさしいまちづくりに関する施策の参考とするために実施しました。

II 調査実施期間

令和7年8月4日(月) ~ 同年8月18日(月)

III 調査方法

調査紙郵送及びインターネット

IV 調査対象

令和6、7年度希望郷いわてモニター 200名

V 回答者数

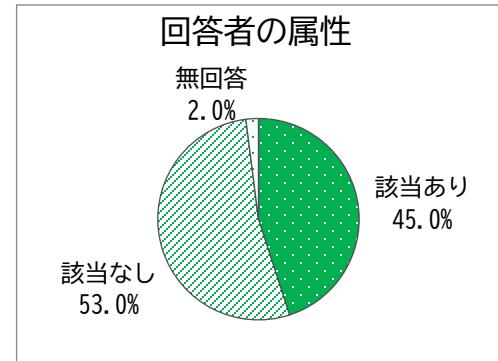
151名

VI 回答率

75.5%

回答者の属性

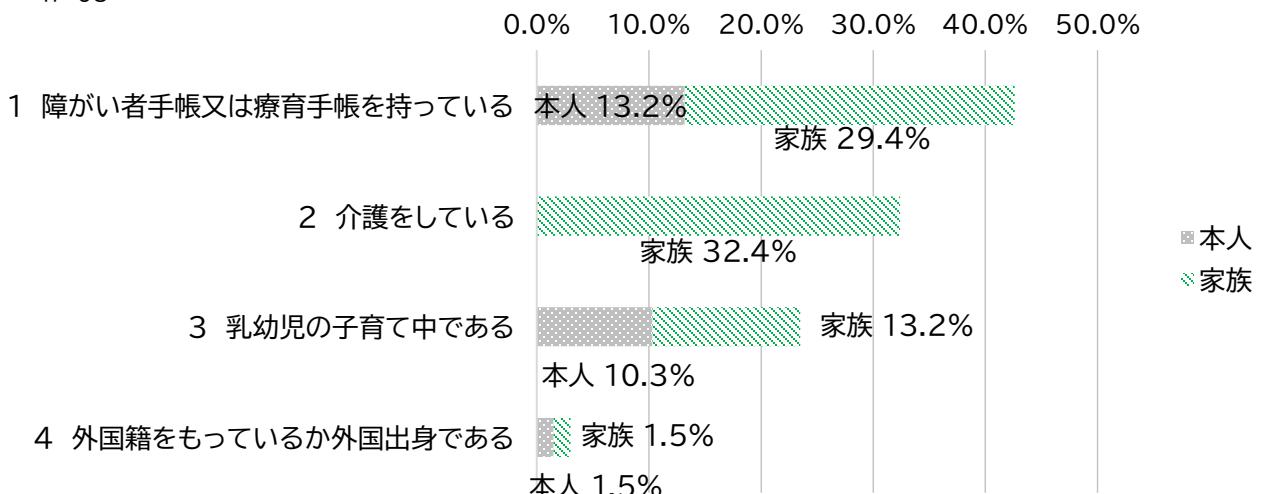
	回答者数	比率
該当あり	68	45.0%
該当なし	80	53.0%
無回答	3	2.0%
合計	151	100.0%



<回答の内訳>（重複あり）

	本人		家族		計	
	件数	比率	件数	比率	件数	比率
1 障がい者手帳又は療育手帳を持っている	9	13.2%	20	29.4%	29	42.6%
2 介護をしている	—	—	22	32.4%	22	32.4%
3 乳幼児の子育て中である	7	10.4%	9	13.2%	16	23.5%
4 外国籍を持っているか外国出身である	1	1.5%	1	1.5%	2	3.0%
合計	17	25.1%	52	76.5%	—	—

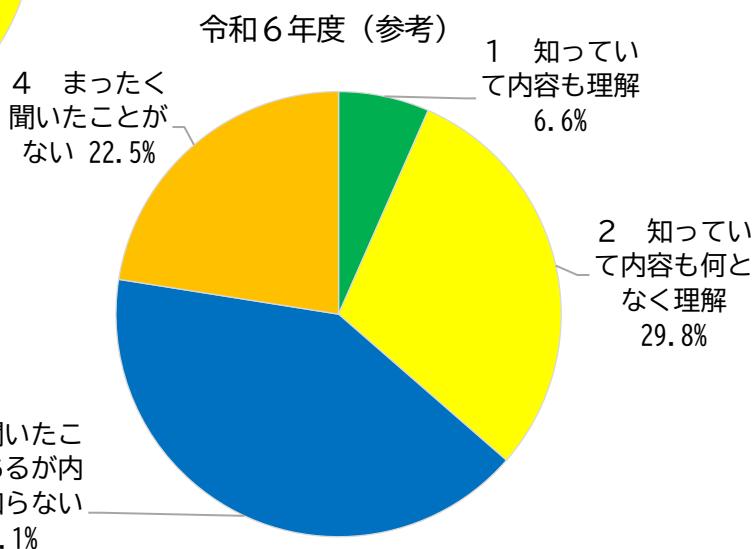
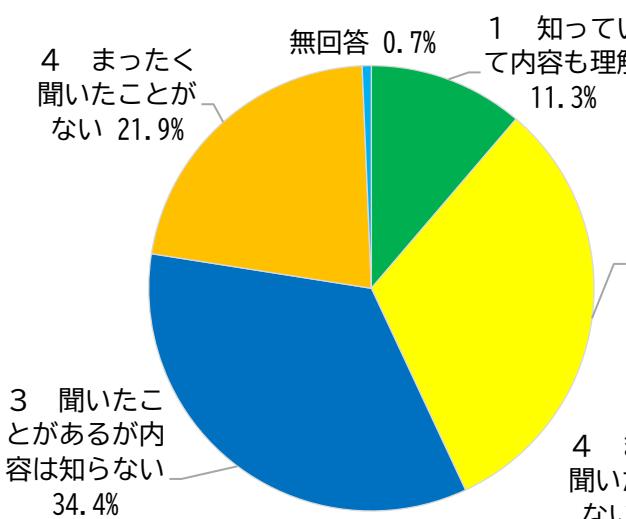
n=68



問1

県の「ひとにやさしいまちづくり条例」や「ひとにやさしいまちづくり推進指針」について、知っていますか。あてはまるものを1つ選んでください。

	令和7年度		令和6年度（参考）	
	件数	比率	件数	比率
1 知っていて内容も理解している	17	11.3%	10	6.6%
2 知っていて内容も何となく理解している	48	31.8%	45	29.8%
3 聞いたことがあるが内容は知らない	52	34.4%	62	41.1%
4 全く聞いたことがない	33	21.9%	34	22.5%
無回答	1	0.7%	0	0.0%
合計	151		151	



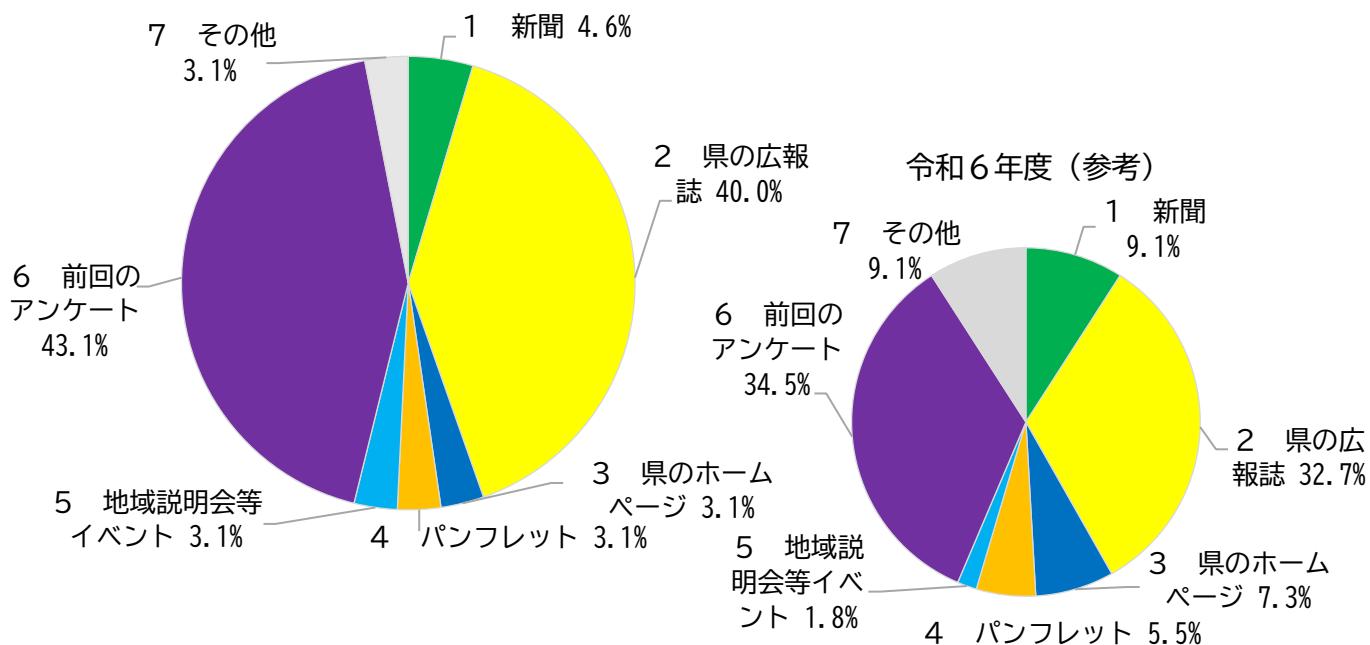
【調査結果】

ひとにやさしいまちづくり条例や同推進指針について知っていて内容も理解している方（「何となく理解している」も含む。）は43.1%となり、令和6年度と比較し、6.7%増加した。

問2

問1で①又は②を選択された方にお聞きします。「ひとにやさしいまちづくり条例」や「ひとにやさしいまちづくり推進指針」について知ったきっかけは何ですか。あてはまるものを1つ選んでください。

	件数	令和7年度		令和6年度(参考)	
		比率	件数	比率	件数
1 新聞	3	4.6%	5	9.1%	
2 県の広報誌	26	40.0%	18	32.7%	
3 県のホームページ	2	3.1%	4	7.3%	
4 パンフレット	2	3.1%	3	5.5%	
5 地域説明会等イベント	2	3.1%	1	1.8%	
6 前回のアンケート	28	43.1%	19	34.5%	
7 その他	2	3.1%	5	9.1%	
無回答	0	0.0%	0	0.0%	
合計	65		55		



【調査結果】

ひとにやさしいまちづくり条例や同推進指針を知ったきっかけとして、前回のアンケートと回答した方が割合が多く、今後も普及啓発を継続する必要がある。

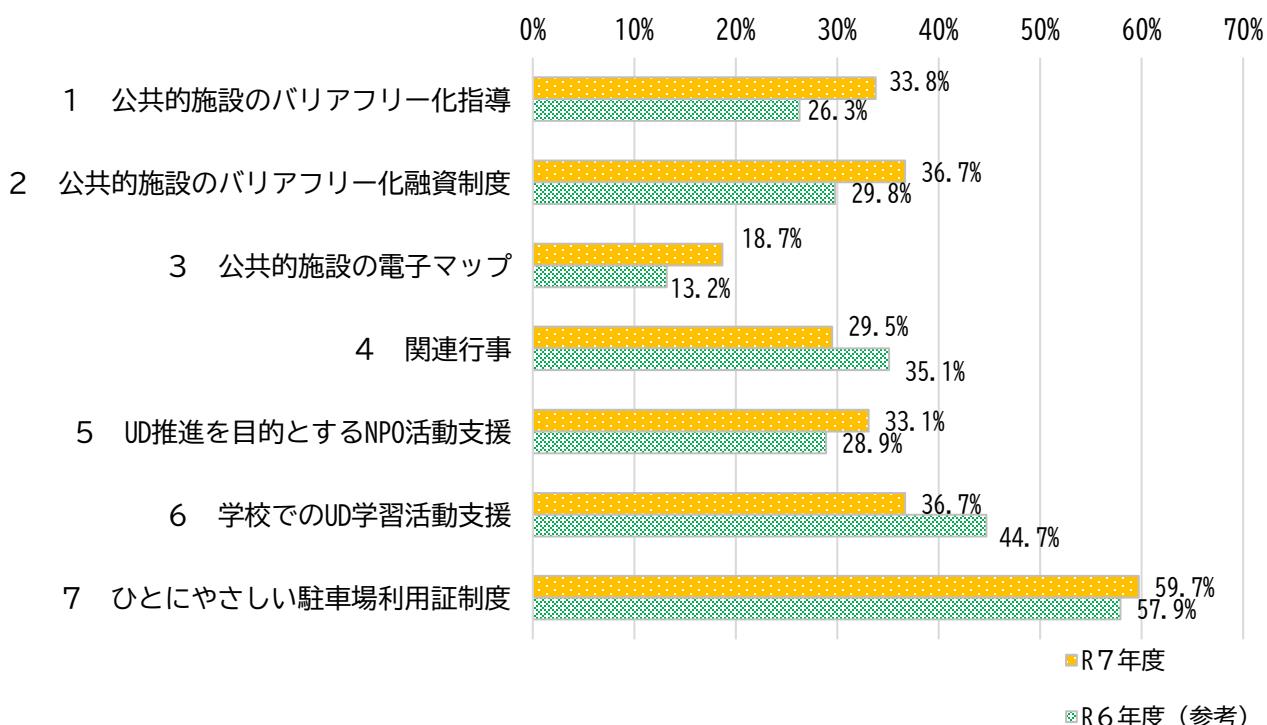
<7 その他の内容>

- その職につきました
- テレビやラジオだと思うがはっきり記憶はない

問3

県では、前記の条例に基づき、以下の事業を展開していますが、見たり聞いたことのあるもの、利用したことのあるものを全て選んでください。（複数回答。比率は回答者実数に対するもの。）

	令和7年度		令和6年度（参考）	
	件数	比率	件数	比率
1 公共的施設のバリアフリー化指導	47	33.8%	30	26.3%
2 公共的施設のバリアフリー化融資制度	51	36.7%	34	29.8%
3 公共的施設の電子マップ	26	18.7%	15	13.2%
4 関連行事の開催	41	29.5%	40	35.1%
5 ユニバーサルデザイン推進を目的とするNPO活動支援	46	33.1%	33	28.9%
6 学校でのユニバーサルデザイン学習活動支援	51	36.7%	51	44.7%
7 ひとにやさしい駐車場利用証制度	83	59.7%	66	57.9%
（回答者実数計）	139		114	



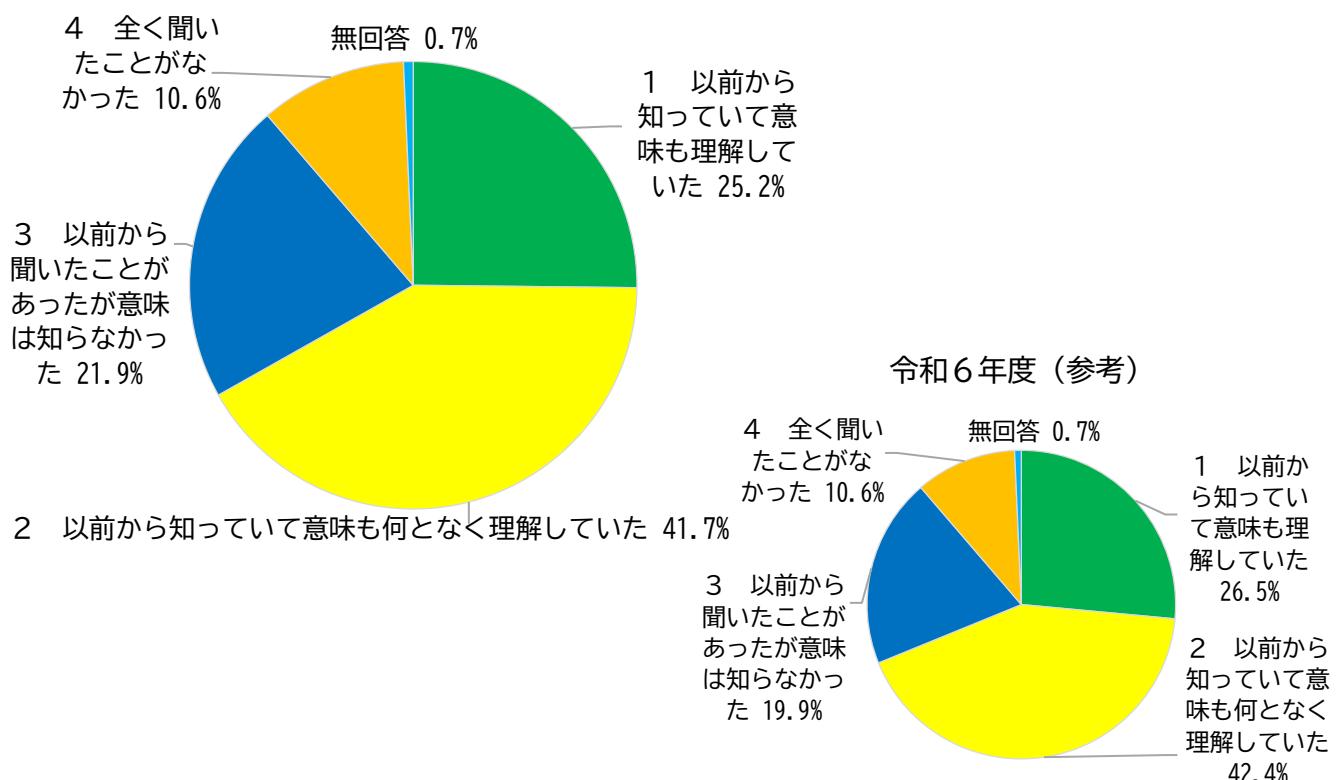
【調査結果】

平成22年度から取り組んでいる「ひとにやさしい駐車場利用証制度」の認知度が59.7%と最も高く、次いで、「公共的施設のバリアフリー化融資制度」、「学校でのUD学習活動支援」がともに36.7%となっている。

問4

「ユニバーサルデザイン」について、本アンケートに御協力いただく時点では、どの程度知っていましたか。あてはまるものを1つ選んでください。

	令和7年度		令和6年度（参考）	
	件数	比率	件数	比率
1 以前から知っていて意味も理解していた	38	25.2%	40	26.5%
2 以前から知っていて意味も何となく理解していた	63	41.7%	64	42.4%
3 以前から聞いたことがあったが意味は知らなかった	33	21.9%	30	19.9%
4 全く聞いたことがなかった	16	10.6%	16	10.6%
無回答	1	0.7%	1	0.7%
合計	151		151	



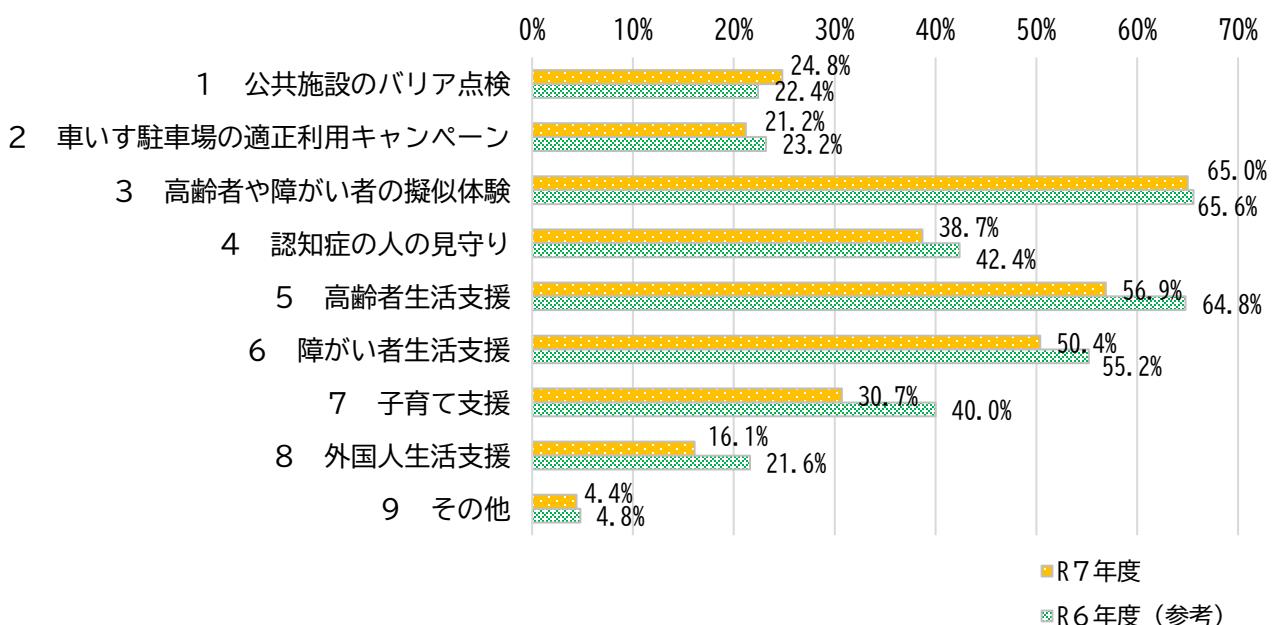
【調査結果】

「ユニバーサルデザイン」という言葉を知っていて意味も理解している方（「何となく理解」も含む。）の割合は66.9%となり、令和6年度と比較して、2.0%減少した。

問5

以下の活動やその活動に取り組む民間団体・グループを見たり聞いたり、実際に参加したことがありますか。あてはまるものを全て選んでください。（複数回答。比率は回答者実数に対するもの。）

	令和7年度		令和6年度（参考）	
	件数	比率	件数	比率
1 公共施設のバリア点検	34	24.8%	28	22.4%
2 車椅子駐車場の適正利用キャンペーン	29	21.2%	29	23.2%
3 高齢者や障がい者の擬似体験	89	65.0%	82	65.6%
4 認知症の人の見守り	53	38.7%	53	42.4%
5 高齢者生活支援	78	56.9%	81	64.8%
6 障がい者生活支援	69	50.4%	69	55.2%
7 子育て支援	42	30.7%	50	40.0%
8 外国人生活支援	22	16.1%	27	21.6%
9 その他ユニバーサルデザインに関する活動	6	4.4%	6	4.8%
（回答者実数計）	137		125	



【調査結果】

見たり聞いたり、参加したことがある割合が多いのは、「高齢者や障がい者の擬似体験」で65.0%、次いで「高齢者生活支援」で56.9%となっている。

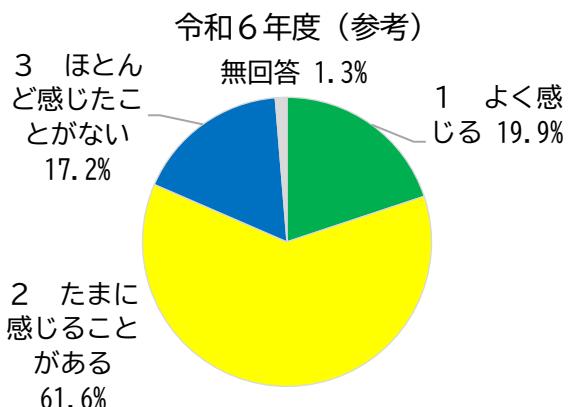
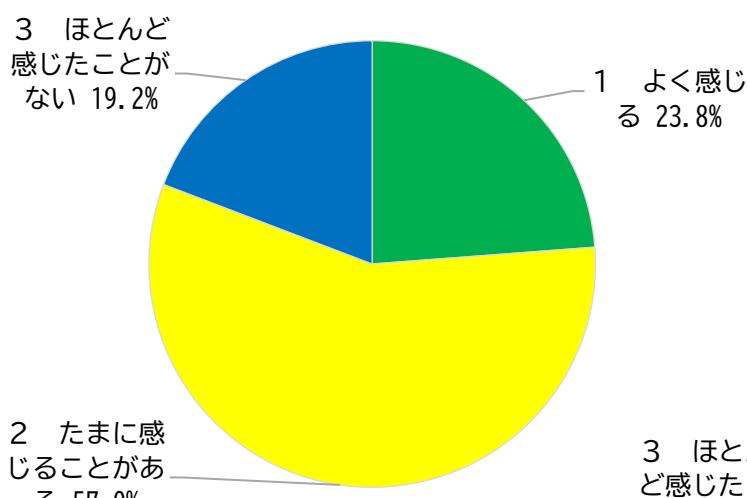
<9 その他の内容>

- 学校教育の一環での学習と、UD施設の見学など
- 特にない。
- 参加したことではない。
- 参加したことではありません。
- インクルーシブイベントの開催、ユニバーサルビーチの開催、ユニバーサルイベントの開催

問6

まちの中で「ハード」（公共的施設、道路など）の利用又は移動をするときに
バリア（障壁）を感じることはありますか。あてはまるものを1つ選んでください。

	令和7年度		令和6年度（参考）	
	件数	比率	件数	比率
1 よく感じる	36	23.8%	30	19.9%
2 たまに感じることがある	86	57.0%	93	61.6%
3 ほとんど感じたことがない	29	19.2%	26	17.2%
無回答	0		2	1.3%
合計	151		151	



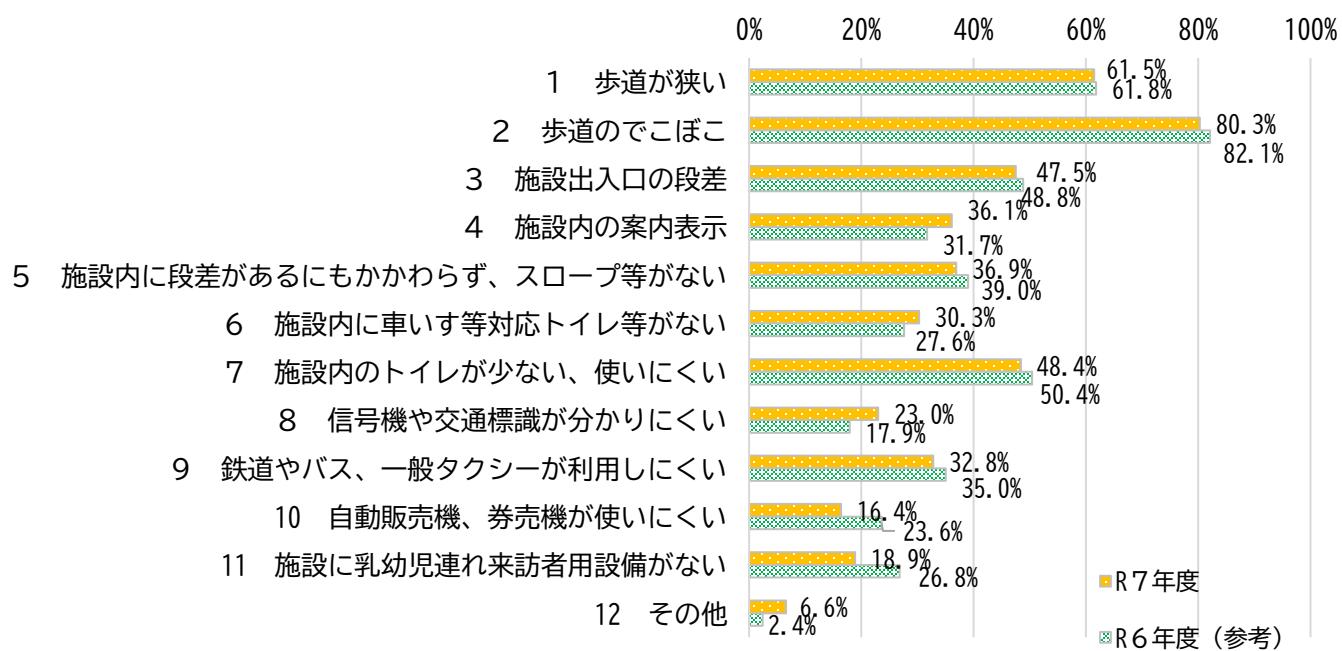
【調査結果】

「よく感じる」「たまに感じることがある」と回答した方の割合は、
80.8%となり、令和6年度と比較して0.7%増加した。

問7

問6で①又は②を選択された方にお聞きします。バリア（障壁）を感じるのはどのようなことですか。あてはまるものを全て選んでください。（複数回答。比率は回答者実数に対するもの。）

	令和7年度		令和6年度（参考）	
	件数	比率	件数	比率
1 歩道が狭い	75	61.5%	76	61.8%
2 歩道でのこぼこ	98	80.3%	101	82.1%
3 施設出入口の段差	58	47.5%	60	48.8%
4 施設内の案内表示	44	36.1%	39	31.7%
5 施設内に段差があるにもかかわらず、スロープ等がない	45	36.9%	48	39.0%
6 施設内にオストメイト対応や車椅子、ベビーカーの対応トイレ等がない	37	30.3%	34	27.6%
7 施設内のトイレが少ない、使いにくい	59	48.4%	62	50.4%
8 信号機や交通標識が分かりにくい	28	23.0%	22	17.9%
9 鉄道やバス、一般タクシーが利用しにくい	40	32.8%	43	35.0%
10 自動販売機、券売機が使いにくい	20	16.4%	29	23.6%
11 施設に乳幼児連れ来訪者用設備がない	23	18.9%	33	26.8%
12 その他	8	6.6%	3	2.4%
（回答者実数計）	122		123	



【調査結果】

歩道（狭い、でこぼこ）にバリアを感じると回答した方が多く、歩道でのこぼこについては、80.3%の方がバリアと感じている。

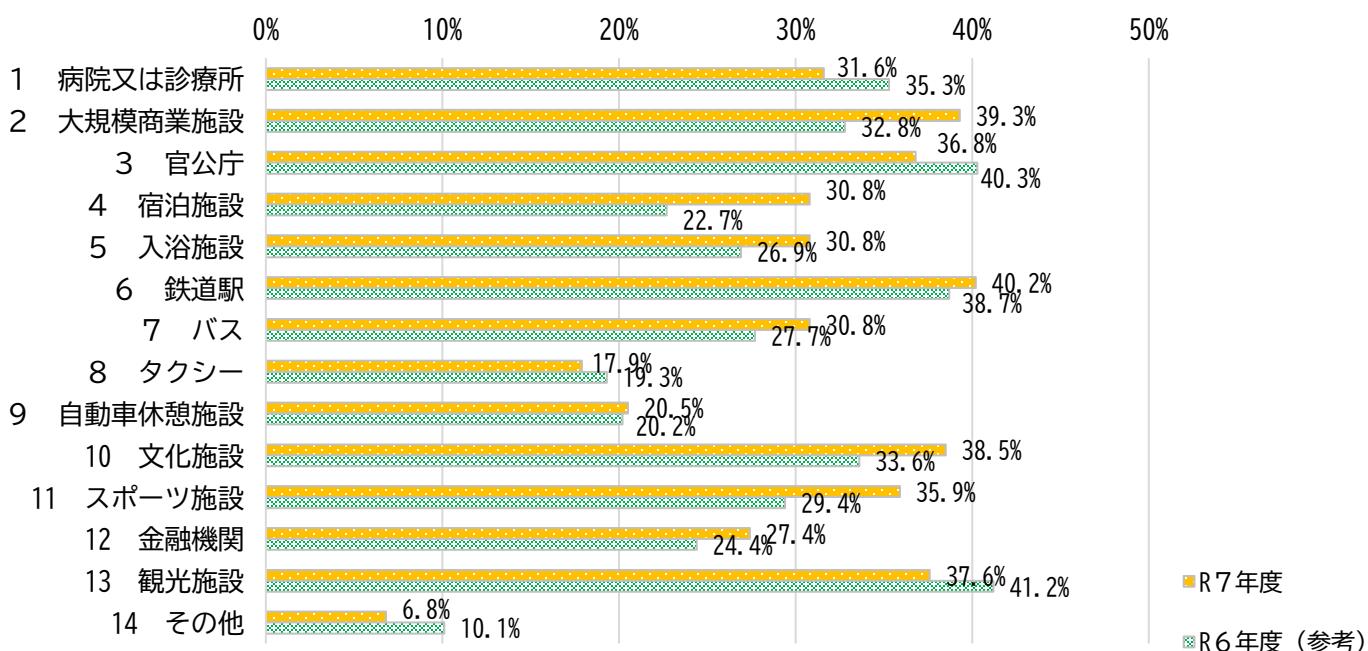
<12その他の内容>

- 道路の歩道の整備が不十分でシルバーカーがひっかかるようだ（買い物カート）。
- 色々な窓口で人がいなくなり聞きたいことが聞けなくなった。
- 歩道の点字ブロックがこわれて歩きにくく障がい者には危険になっている
- 身体的に不自由な方ばかりでなく、老人の日常でも（例えばリハビリ兼ての散歩など）ちょっとした休めるイスなどが道路にあったら楽しく生活できるのは・・・と思う
- 駐車場で隣の車との間隔が狭い
- 郵便局で駐車3台のうち1台は障がい者用で一般用もう1台分増やしてほしい。おまけに冬場は除雪の山になっている。
- オスメイトのWCは、ほとんどないと思います。どこに行ったらあるのかお聞きしたいです。
- 和式のトイレがまだ多い所に行ったりするとギョっとする
- 白線が消えかかってもそのまま。点字誘導ブロックが壊れても修理されない。歩道に雑草が目立っても取らない。

問8

問6で①又は②を選択された方にお聞きします。バリア（障壁）を感じたことのある施設等を全て選んでください。（複数回答。比率は回答者実数に対するもの。）

	件数	令和7年度		令和6年度（参考）	
		比率	件数	比率	件数
1 病院又は診療所	37	31.6%	42	35.3%	
2 大規模商業施設	46	39.3%	39	32.8%	
3 官公庁	43	36.8%	48	40.3%	
4 宿泊施設	36	30.8%	27	22.7%	
5 入浴施設	36	30.8%	32	26.9%	
6 鉄道駅	47	40.2%	46	38.7%	
7 バス	36	30.8%	33	27.7%	
8 タクシー	21	17.9%	23	19.3%	
9 自動車休憩施設	24	20.5%	24	20.2%	
10 文化施設	45	38.5%	40	33.6%	
11 スポーツ施設	42	35.9%	35	29.4%	
12 金融機関	32	27.4%	29	24.4%	
13 観光施設	44	37.6%	49	41.2%	
14 その他	8	6.8%	12	10.1%	
（回答者実数計）	117		119		



【調査結果】

鉄道駅、大規模商業施設、文化施設、観光施設でバリアを感じると回答した方の割合が多い。

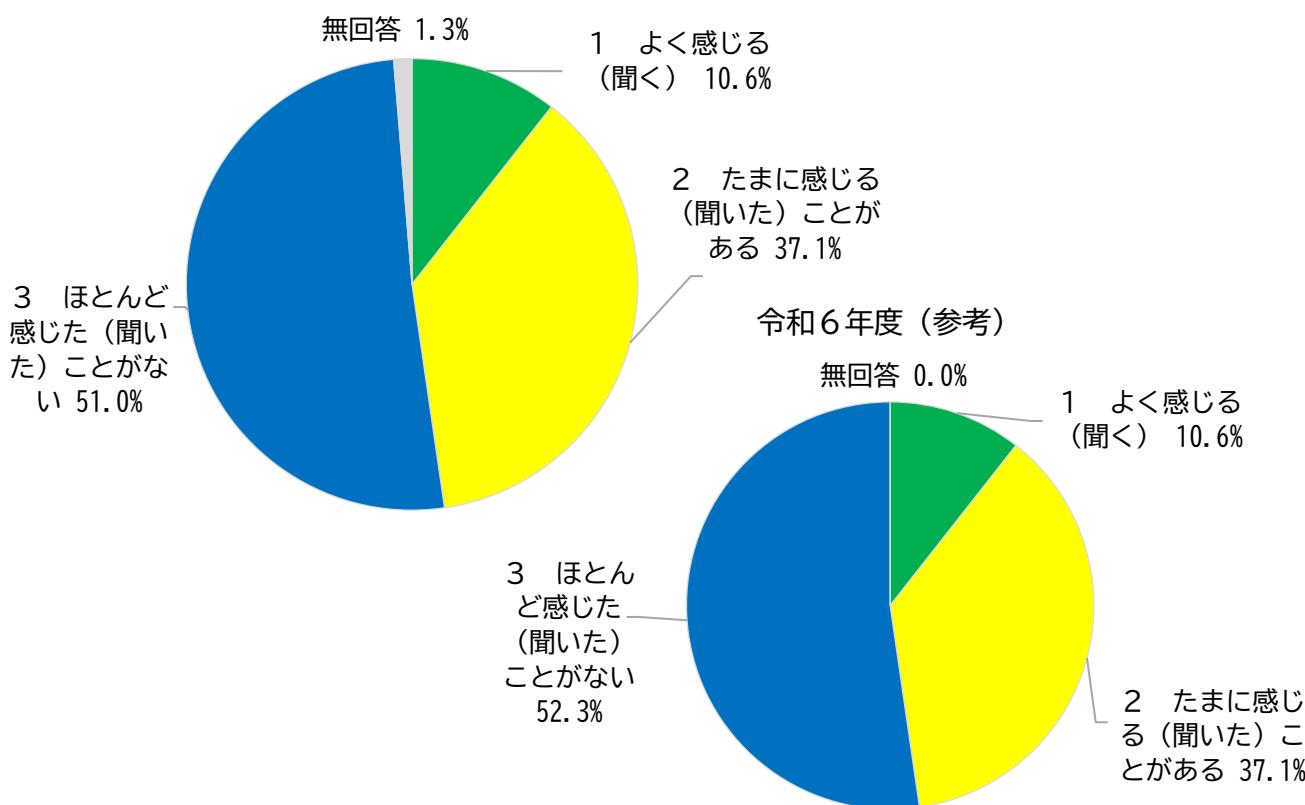
<14その他の内容>

- 道路を渡る際、歩道から車道に降りようとするときの段差。骨折して松葉杖のときに大変な思いをしました
- JRで利用駅が無人駅になっていた。地域住民・施設に周知していない。ワンマンカーの利用方法も変更されていたが、教えてくれる人もいなく本当に困った。JRに問い合わせても東京に繋がり、説明にも時間がかかり、公共交通機関として本当に不十分だと感じた。
- 神社仏閣など基本的に古い建物及び古い公園等のトイレ
- 海水浴場
- 観光地の商業エリアの道路。特に歩道の点字ブロックが蛇行していたり、景観用の鉢植えが頭の高さにあったりと、視覚障がい者に優しくないと感じた。
- 歩道
- たくさんありすぎて・・・。通院にバスを利用したくても本数が少なかったり・・・とか。
- バリアを感じた事がありません。
- 車いすユーザーです。歩道と車道の境目が崩れていたり、補修路面の凹凸など、バリアはたくさんあります。また、電動車いす使用時、入り口や内部が狭くて入れないことが多いです。

問9

公共的施設の「ソフト」の対応（従業員による車椅子用トイレやスロープ等バリアフリー設備の適切な管理、車椅子の適切な取扱い等介助の技術、言語による意思疎通が困難な方に対する適切な応対等）で不便さや不満を感じたこと、あるいは身近な方から不便さや不満を聞いたことはありますか。あてはまるものを1つ選んでください。

	令和7年度		令和6年度（参考）	
	件数	比率	件数	比率
1 よく感じる（聞く）	16	10.6%	16	10.6%
2 たまに感じる（聞いた）ことがある	56	37.1%	56	37.1%
3 ほとんど感じた（聞いた）ことがない	77	51.0%	79	52.3%
無回答	2	1.3%	0	0.0%
合計	151		151	



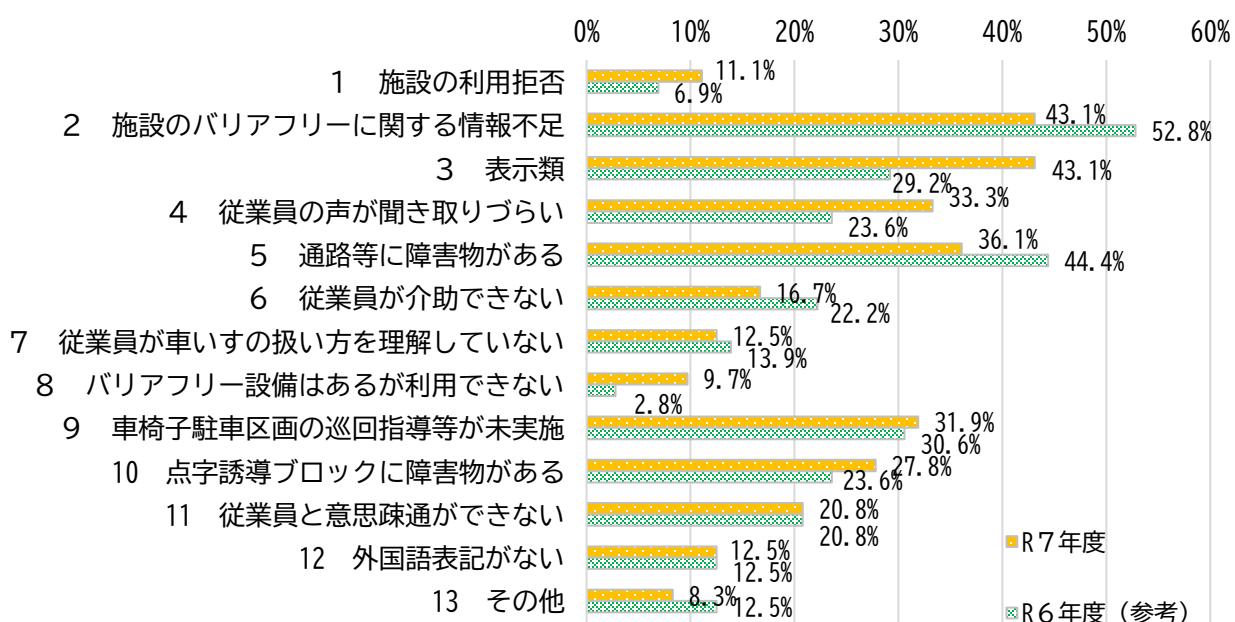
【調査結果】

「よく感じる（聞く）」、「たまに感じる（聞いた）ことがある」と回答した方の割合が、47.7%となり、令和6年度に引き続き、半数近くの方がソフト面での不満等を感じている。

問10

問9で①又は②を選択された方にお聞きします。「ソフト」の対応に不便さや不満を感じた（身近な方から聞いた）ことはどのようなことですか。あてはまるものを全て選んでください。（複数回答。比率は回答者実数に対するもの。）

	件数	令和7年度		令和6年度（参考）	
		比率	件数	比率	件数
1 施設の利用拒否	8	11.1%	5	6.9%	
2 施設のバリアフリーに関する情報不足	31	43.1%	38	52.8%	
3 表示類が見づらい	31	43.1%	21	29.2%	
4 従業員の声が聞き取りづらい	24	33.3%	17	23.6%	
5 通路等に障害物がある	26	36.1%	32	44.4%	
6 従業員が介助できない	12	16.7%	16	22.2%	
7 従業員が車椅子の扱い方を理解していない	9	12.5%	10	13.9%	
8 バリアフリー設備はあるが利用できない	7	9.7%	2	2.8%	
9 車椅子駐車区画の巡回指導等が未実施	23	31.9%	22	30.6%	
10 点字誘導ブロックの上に障害物がある	20	27.8%	17	23.6%	
11 従業員と意思疎通ができない	15	20.8%	15	20.8%	
12 外国語表記がない	9	12.5%	9	12.5%	
13 その他	6	8.3%	9	12.5%	
(回答者実数計)	69		72		



【調査結果】

「施設のバリアフリーに関する情報不足」「表示類」「通路等に障害物がある」と回答した方の割合が多い。

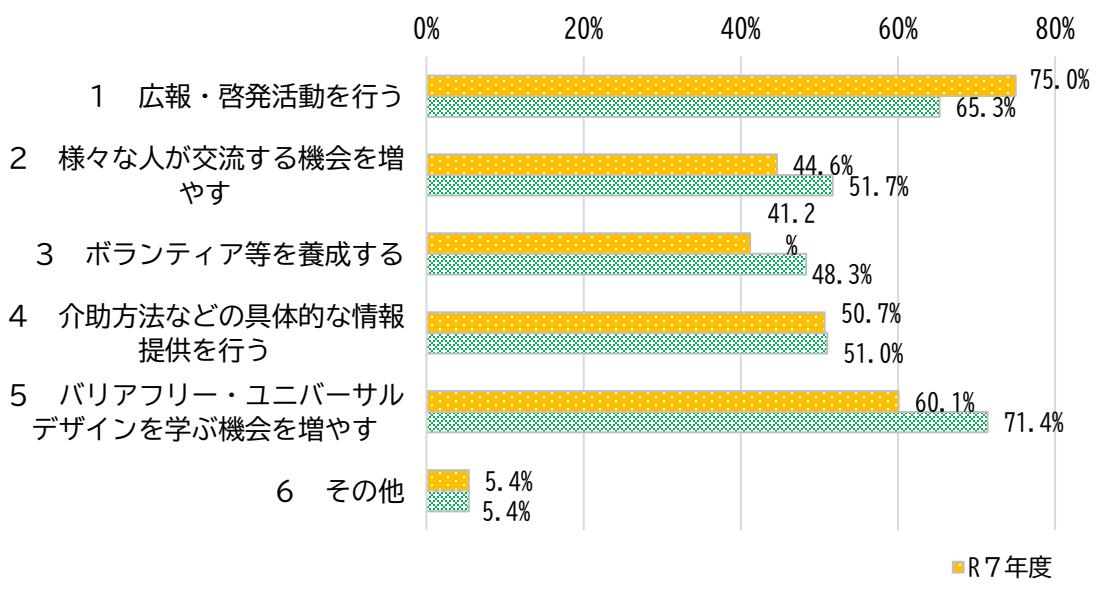
<13その他の内容>

- JRの障がい者割引に 100キロメートルを超える単独での利用には半額の割引をする と、明記されているのに、JR社員が理解しておらず何度も出口で止められ追加料金を請求された。
- 介助の手を借りにくい（インターホンなどが入り口にないと頼みにくい）
- 人がいなくて①～⑫以前の問題であきらめた。
- 大きなイベントがあっても、障がいを持っている人でも行けるのか、いけないのか、説明が不十分、全てのイベントは全ての人への選択のチャンスを考えるべき
- 選挙に於いて投票が出来ない。
- 車椅子で開き戸は使えない。電動ドアかスライド式にしてほしい。
- 手話は少しでも分かってもらえるよう勉強してほしい。少しでも！！
- 車椅子用トイレの中に荷物を置くテーブル（たな）が無い。

問11-1

「ひとにやさしいまちづくり」では、建物（ハード）や人の対応など（ソフト）だけではなく、様々な人々の立場を理解し、適切な行動を取ることが大切であると考えられますが、全ての人があらゆる分野の活動に参加することを可能にするためにどのような取組が必要だと思いますか。あてはまるものを全て選んでください。（複数回答。比率は回答者実数に対するもの。）

	令和7年度		令和6年度（参考）	
	件数	比率	件数	比率
1 広報・啓発活動を行う	111	75.0%	96	65.3%
2 様々な人が交流する機会を増やす	66	44.6%	76	51.7%
3 手助けするボランティア等を養成する	61	41.2%	71	48.3%
4 サポートするための介助方法などの具体的な情報提供を行う	75	50.7%	75	51.0%
5 バリアフリー・ユニバーサルデザインを学ぶ機会を増やす	89	60.1%	105	71.4%
6 その他	8	5.4%	8	5.4%
回答者実数	148		147	



【調査結果】

「広報・啓発活動を行う」、「バリアフリー・ユニバーサルデザインを学ぶ機会を増やす」、「介助方法などの具体的な情報提供を行う」の順に、回答した方の割合が多い。

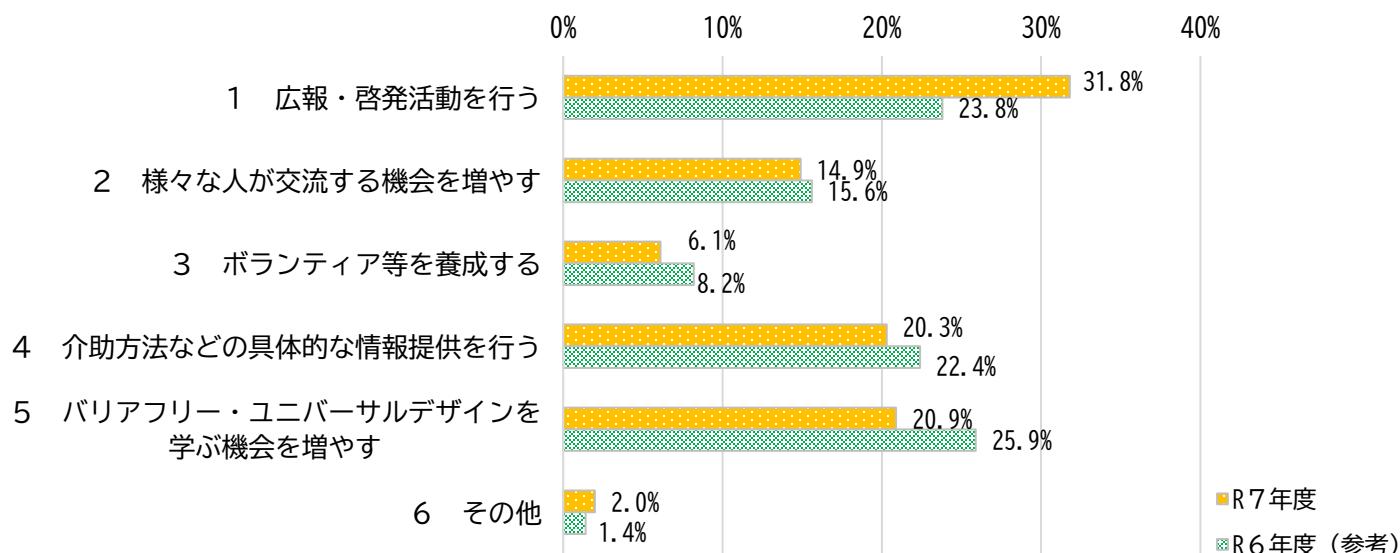
<6 その他の内容>

- ベビーカーを押してみたり、車いすに自分がのってみたり、松葉杖で歩いてみて初めてわかることがあります。体験が何より。
- 障がい者の声を聞いてください。困った経験があるはずなのに、困ったことに気づけていない・しょうがないと思い込んでいる方がたくさんいます。
- 実際に会った時にすぐに行動できない。きっかけをどの様にするのかも教えてほしい。
- インクルーシブな場を増やす、対話を増やす、社会で子供を育てる考え方方が広がりますように、インクルーシブ教育に携わる、野口晃菜さんの講演を積極的に、まずは、県や市の職員、教育者が受けるべき
- 障がい者や高齢者を見下す態度の者が多い。特に店員など
- 投書
- すべての人が参加することが、必ずしも必要なことなのか疑問に思う。
- 障がい者が街に出ると「何がバリアになっているか」を、具体的な場所で見聞する機会を設けてほしいです。

問11-2

さらに、その中で最も重要だと思われるものを次の中から1つ選んでください。

	令和7年度		令和6年度（参考）	
	件数	比率	件数	比率
1 広報・啓発活動を行う	47	31.8%	35	23.8%
2 様々な人が交流する機会を増やす	22	14.9%	23	15.6%
3 手助けするボランティア等を養成する	9	6.1%	12	8.2%
4 サポートするための介助方法などの具体的な情報提供を行う	30	20.3%	33	22.4%
5 バリアフリー・ユニバーサルデザインを学ぶ機会を増やす	31	20.9%	38	25.9%
6 その他	3	2.0%	2	1.4%
無回答・無効回答	6	4.1%	4	2.7%
合計	148		147	



【調査結果】

「広報・啓発活動を行う」が最も多く31.8%となり、次いで「バリアフリー・ユニバーサルデザインを学ぶ機会を増やす」が20.9%となった。

<6 その他の内容>

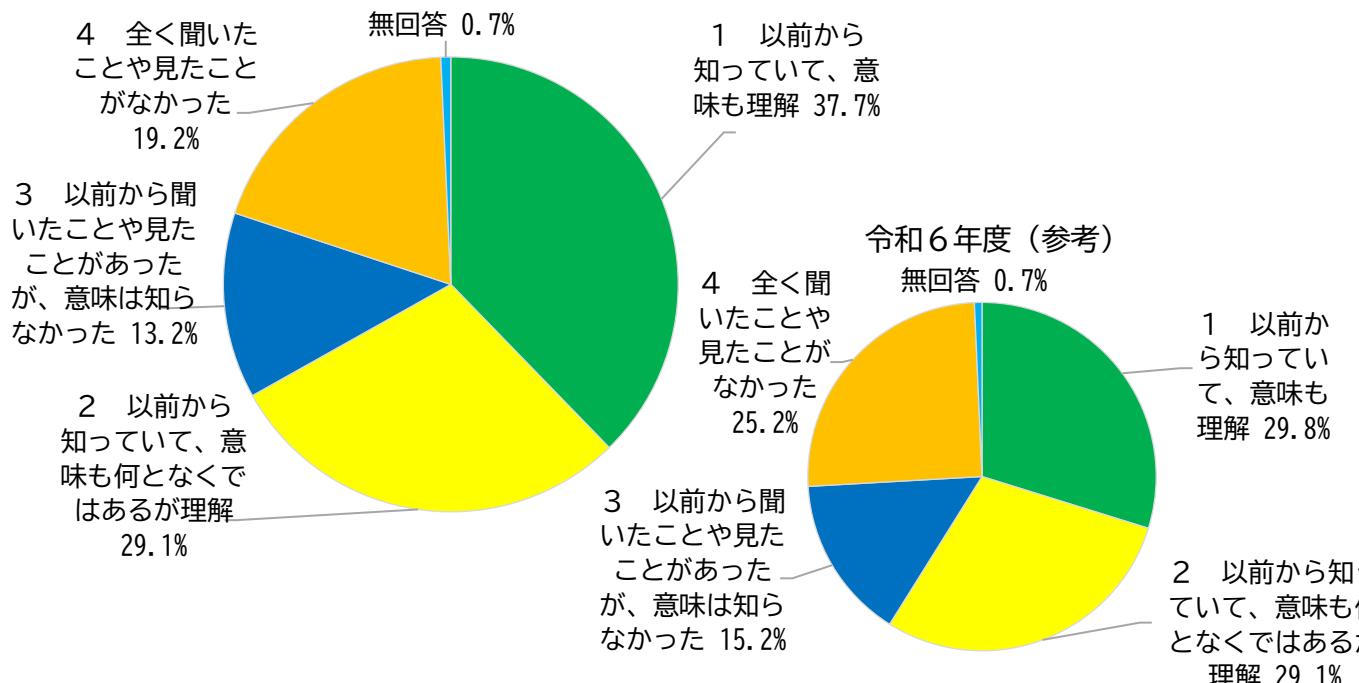
- 県、市、特に市長、職員、教育、医療従事者、当事者、携わる人が、知識のアップデート、確認、を徹底的にするべき、自分自身のバイアスの確認をしてほしい。
- よくわからない
- 1に付け加えてです。障がい者自身がデモンストレーションする。

問12

県では、外見からは援助や配慮を必要とすることが分からぬ方が身に付けることによって、援助や配慮を得られやすくなるよう、「ヘルプマーク」の配布・普及に取り組んでいます。

「ヘルプマーク」について、本アンケートに御協力いただく時点では、どの程度知っていましたか。あてはまるものを1つ選んでください。

	令和7年度		令和6年度(参考)	
	件数	比率	件数	比率
1 以前から知っていて、マークの意味も理解していた	57	37.7%	45	29.8%
2 以前から知っていて、マークの意味も何となくではあるが理解していた	44	29.1%	44	29.1%
3 以前から聞いたことや見たことがあったが、マークの意味は知らなかった	20	13.2%	23	15.2%
4 全く聞いたことや見たことがなかった	29	19.2%	38	25.2%
無回答	1	0.7%	1	0.7%
合計	151		151	



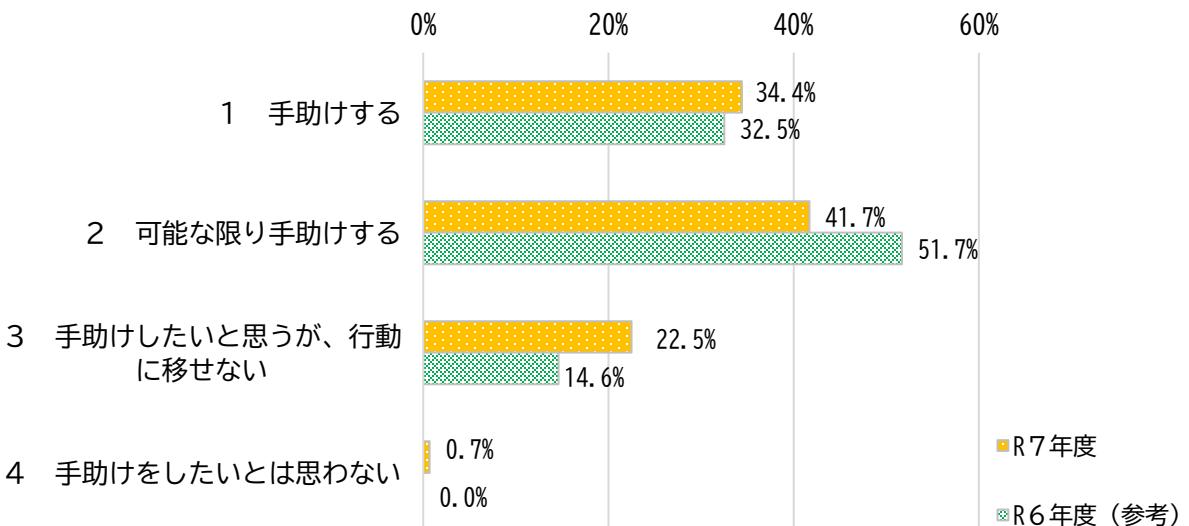
【調査結果】

ヘルプマークの意味を「理解していた」、「何となくではあるが理解していた」と回答をした方の割合は、66.8%となり、令和6年度と比較して7.9%増加した。

問13

あなたは、外出の際、車椅子の方が段差で進めなくなっていたり、視覚障がいのある方が迷っていたり、外国人の方が駅や道で迷っていたりした場合など、困っている様子を見かけた場合、声をかけて手助けをしますか。あてはまるものを1つ選んでください。

	令和7年度		令和6年度（参考）	
	件数	比率	件数	比率
1 手助けする	52	34.4%	49	32.5%
2 可能な限り手助けする	63	41.7%	78	51.7%
3 手助けしたいと思うが、行動に移せない（かもしれない）	34	22.5%	22	14.6%
4 手助けしたいとは思わない	1	0.7%	0	0.0%
無回答	1	0.7%	2	1.3%
合計	151		151	



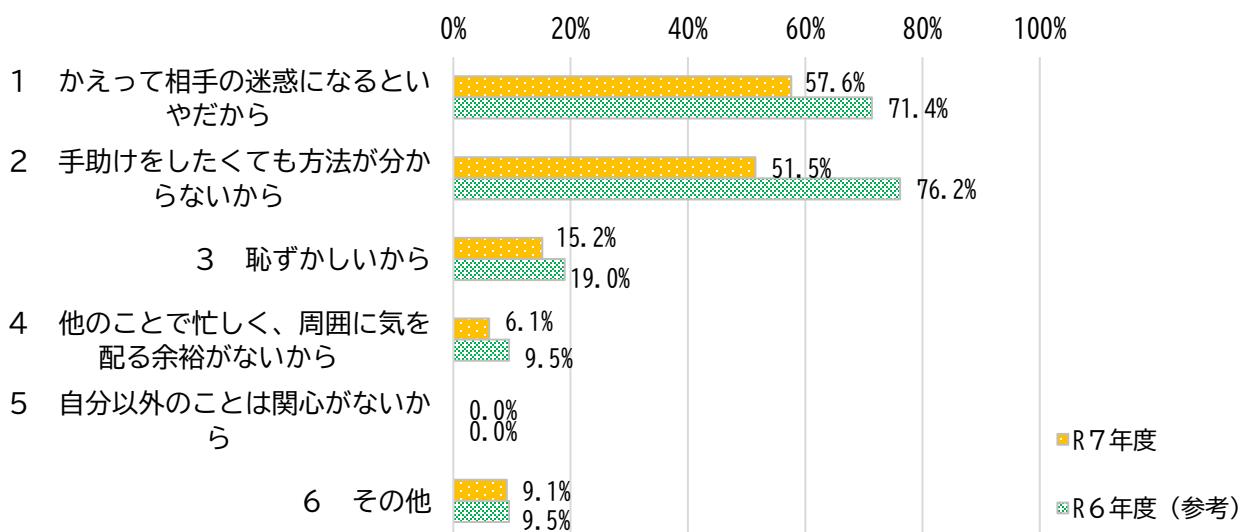
【調査結果】

「手助けをする」、「可能な限り手助けをする」と回答した割合は、76.1%となり、令和6年度と比較して8.1%減少した。

問14

問13で③又は④を選択された方にお聞きします。手助けをしない理由は何ですか。あてはまるものを全て選んでください。（複数回答。比率は回答者実数に対するもの。）

	件数	令和7年度		令和6年度（参考）	
		比率	件数	比率	件数
1 かえって相手の迷惑になるといやだから	19	57.6%	15	71.4%	
2 手助けをしたくても方法が分からないから	17	51.5%	16	76.2%	
3 恥ずかしいから	5	15.2%	4	19.0%	
4 他のことで忙しく、周囲に気を配る余裕がないから	2	6.1%	2	9.5%	
5 自分以外のことは関心がないから	0	0.0%	0	0.0%	
6 その他	3	9.1%	2	9.5%	
無回答	1	3.0%	0	0.0%	
（回答者実数計）	32		21		



【調査結果】

「かえって相手の迷惑になるといやだから」、「手助けをしたくても方法が分からないから」と回答した方の割合が50%を超えた。

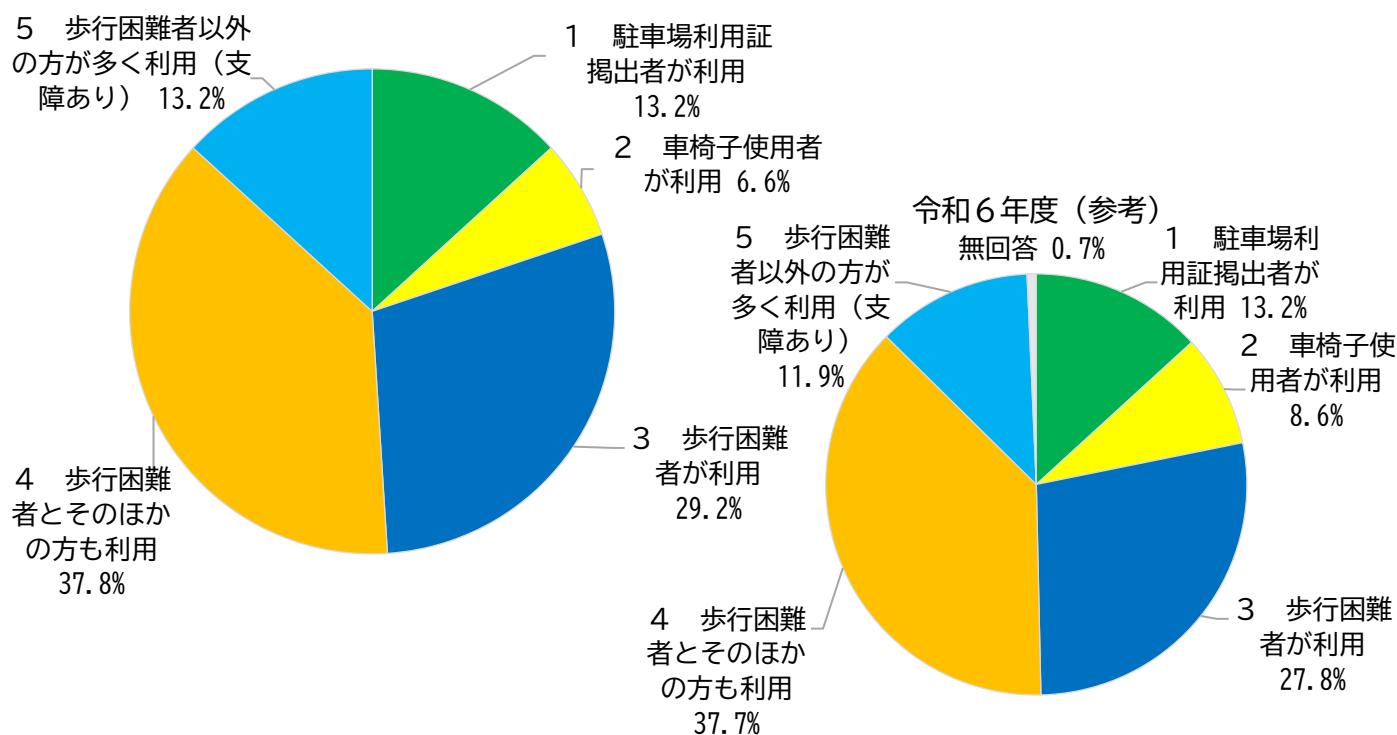
<6 その他の内容>

- 足が悪いため
- 自分も高齢者で、うまく手助けできるか、迷惑にならないか
- 助けを求められた場合は可能な限り手伝いたいが、様子を見ただけでは困っているのかどうか判断しかねるから。

問15

公共的施設には、車椅子を使用される方や様々な状況で歩行が困難な方向に「車椅子駐車区画」が設けられています。最近の車椅子駐車区画の一般的な利用状況について、どのように感じていますか。あてはまるものを1つ選んでください。

	令和7年度		令和6年度（参考）	
	件数	比率	件数	比率
1 駐車場利用証掲出者が利用	20	13.2%	20	13.2%
2 車椅子使用者のみが利用	10	6.6%	13	8.6%
3 車椅子使用者や高齢者、障がい者、妊娠婦等歩行困難者のみが利用	44	29.1%	42	27.8%
4 車椅子使用者や高齢者、障がい者、妊娠婦等歩行困難者とそのほかの方も利用	57	37.8%	57	37.7%
5 車椅子使用者や高齢者、障がい者、妊娠婦等歩行困難者以外の方が多く利用（支障あり）	20	13.2%	18	11.9%
無回答	0	0.0%	1	0.7%
合計	151		151	



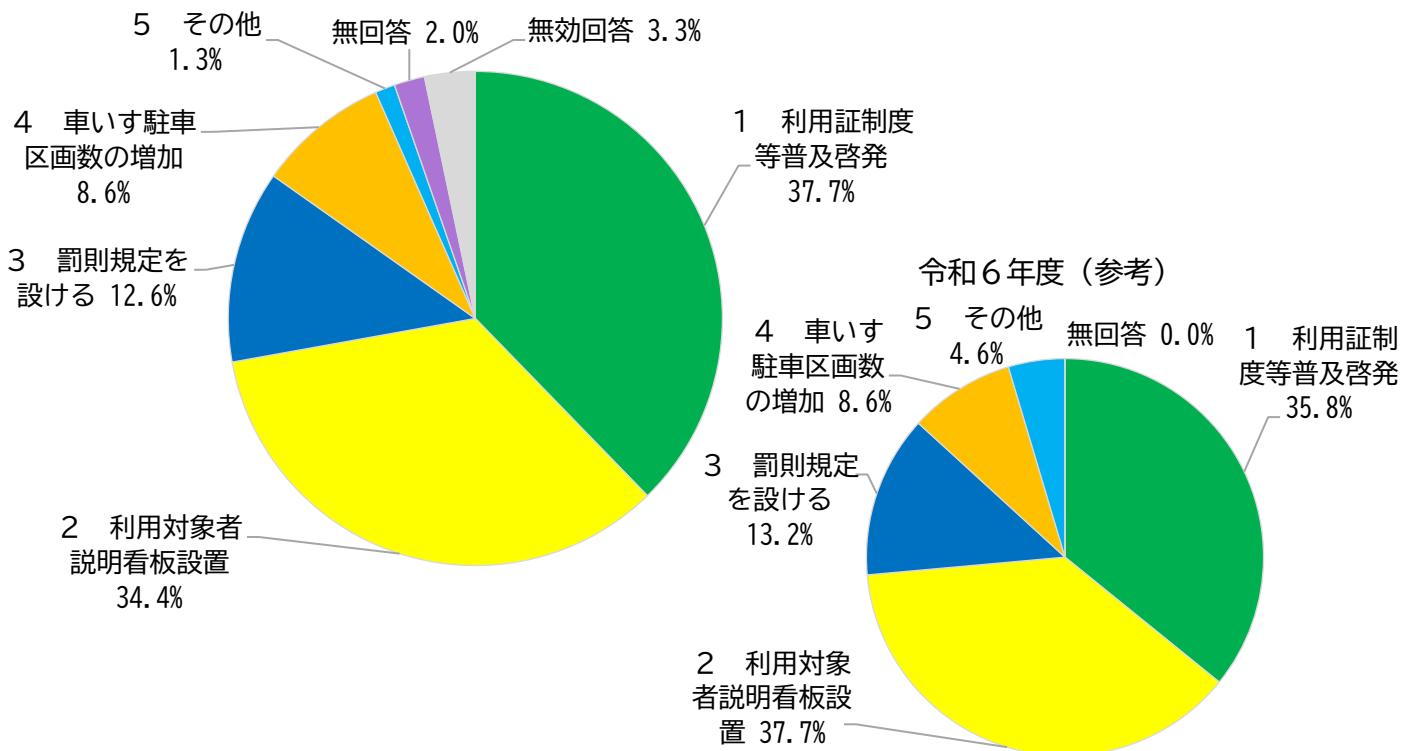
【調査結果】

「歩行困難者とそのほかの方も利用」「歩行困難者以外の方が多く利用（支障あり）」と回答した方の割合が51.0%となり、令和6年度と比較して1.4%増加した。

問16

車椅子駐車区画を車椅子使用者や高齢者、障がい者、妊産婦等歩行困難な方が支障なく利用できるようにするには、どのようにしたら良いと思いますか。あてはまるものを1つ選んでください。

	令和7年度		令和6年度（参考）	
	件数	比率	件数	比率
1 利用証制度等の普及啓発	57	37.7%	54	35.8%
2 利用対象者説明の看板設置	52	34.4%	57	37.7%
3 罰則規定を設ける	19	12.6%	20	13.2%
4 車椅子駐車区画数の増加	13	8.6%	13	8.6%
5 その他	2	1.3%	7	4.6%
無回答	3	2.0%	0	0.0%
無効回答	5	3.3%	0	0.0%
合計	151		151	



【調査結果】

令和6年度に引き続き、「車椅子駐車区画利用対象者の説明看板の設置」と「利用証制度等の普及啓発」を求める声が多い。

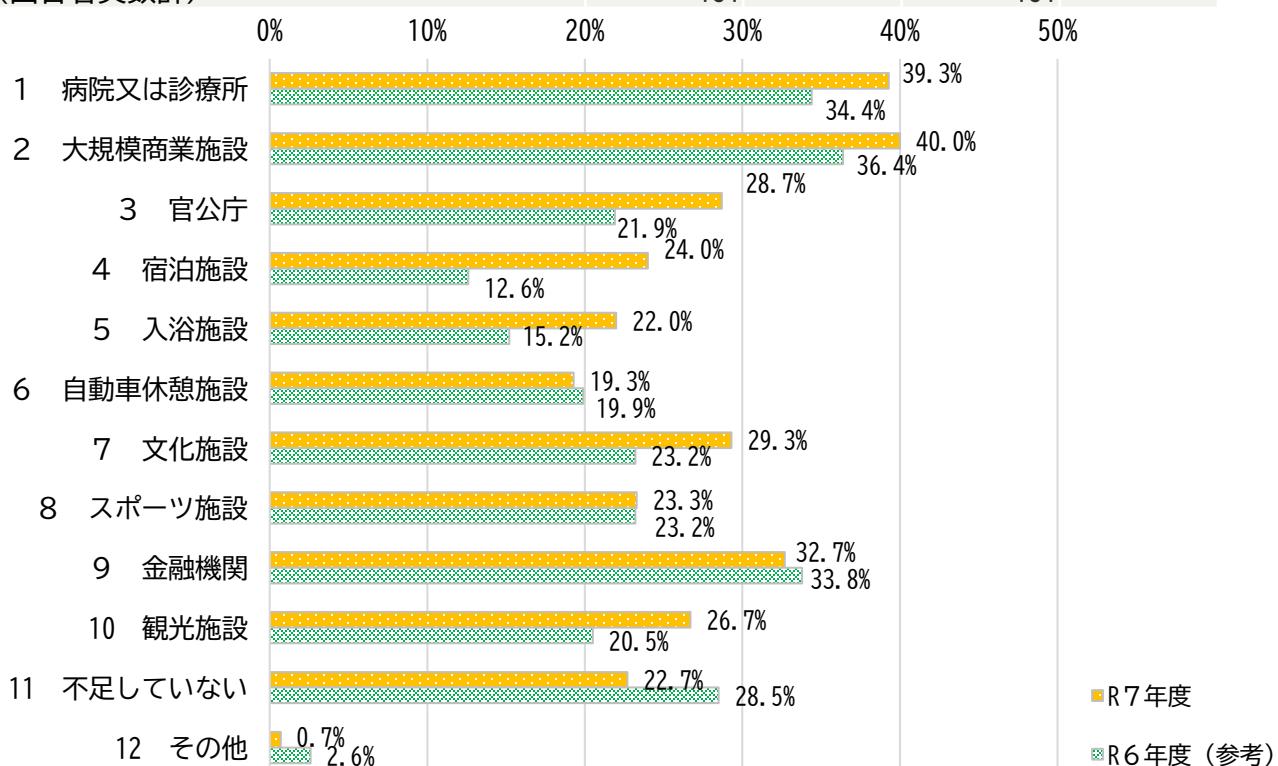
<5 その他の内容>

- 今日初めてわかりました
- 他の駐車区画との区別が分かりやすいようにする。色をつける、向きを90度変える
- そもそも、駐車利用証を掲示していない人が多い。必ず掲示するようにも指導すべき

問17

次の施設のうち、車椅子駐車区画が不足していると思う施設を全て選んでください。（複数回答。比率は回答者実数に対するもの。）

	令和7年度		令和6年度（参考）	
	件数	比率	件数	比率
1 病院又は診療所	59	39.3%	52	34.4%
2 大規模商業施設	60	40.0%	55	36.4%
3 官公庁	43	28.7%	33	21.9%
4 宿泊施設	36	24.0%	19	12.6%
5 入浴施設	33	22.0%	23	15.2%
6 自動車休憩施設	29	19.3%	30	19.9%
7 文化施設	44	29.3%	35	23.2%
8 スポーツ施設	35	23.3%	35	23.2%
9 金融機関	49	32.7%	51	33.8%
10 観光施設	40	26.7%	31	20.5%
11 不足していない	34	22.7%	43	28.5%
12 その他	1	0.7%	4	2.6%
無回答	1	0.7%	0	0.0%
（回答者実数計）	151		151	

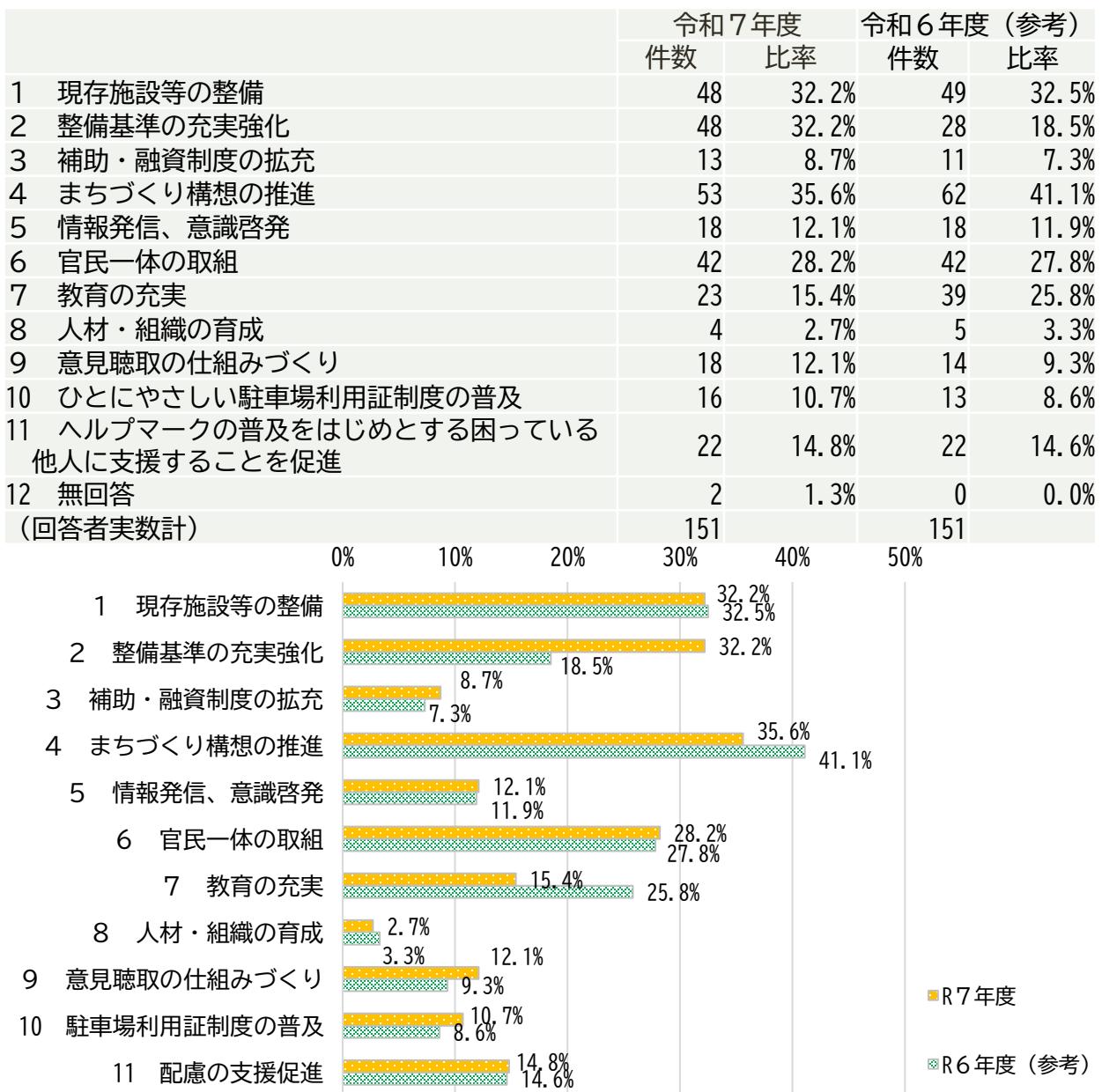


【調査結果】

「大規模商業施設」と回答した割合が40.0%と最も多く、次いで、「病院又は診療所」が多くなった。

問18

今後、誰もが暮らしやすい「ひとにやさしいまちづくり」を進めていく上で、施策として特に重要なことは何ですか。あてはまるものを2つ選んでください。（複数回答。比率は回答者実数に対するもの）



【調査結果】

「まちづくりの構想の推進」が35.6%で令和6年度に引き続き最も多くなり、次いで、「現存施設等の整備」、「整備基準の充実強化」がともに32.2%となった。

問19

県内で「ひとにやさしいまちづくり」に関する取組や製品などを御存知でしたら、御記入ください。

- 疑似体験ができる用具を無料で貸し出ししてくれる施設が、インターネットですぐ検索できるのはありがたい。
- デザイン分野ではUDフォントが普及しており誰でも読みやすい文字が使われるようになっている。
- 高齢者も州会社の一部だという認識で、声かけが難しいのですが、特別視するのではなく、いつかは通過すべき道ぐらいの簡易な気持ちで、リハビリ体操をしている。
- 駐車場ステッカー
- スーパーマーケット、量販店などで車椅子対応の駐車場を見ます。
- 家族の入院のため県外の大きな病院の正面玄関で困っていたところ、付近にいたエプロンをかけた複数の内の一人にすぐに道案内をしてもらうことでとても助かったことがあります。地元の病院でもちょっとお手伝いしてくれる人がいると良いなと思います。
- 久慈市内（駅近）で道上に椅子がおいてあって、やさしい街だと思いました。洋野町にも是非ほしいし、あったら高齢者は嬉しいと思う。
- ヘルプマークの説明書きや、窓口やカウンターでの耳マークなど、障がいや困り事を持つ人に親切な掲示が増えたと思います。
しかし、施設が古いと、トイレが和式が多かったり、狭くて出入りしづらかったりします。
乗降客の少ない駅は、そもそもバリアフリーではなかったり。
時間をかけて、これらが解消されればいいなと思います。
- 私は偏頭痛持ちで、体調が悪い場合もあります。外見ではわからないが、実際は体調が悪い人もいるので、何か配慮みたいなものがあってもよいと思う。
- 知っているのは「ひとにやさしい駐車場利用証制度」と「ヘルプマーク」のみです。
- ないので、作りたいし、発明したい
- 標識や表示が消えてきているのが増えている。明確に表示してほしい。
- イオンでの利用者の声を公開しているスクリーンありますが、とても良いことだと思います。課題が見えてくる、まあ商品に関しての声は多いが小さな声が改善につながっている。
- 平泉町長島地区のある区内では、車のない人をのせて買物などへつれていってあげるボランティアがあります。
- 道の駅石神の丘は男女どちらも車椅子用のトイレがあって利用がしやすい。介助者が異性でも利用がしやすい。

問19

県内で「ひとにやさしいまちづくり」に関する取組や製品などを御存知でしたら、御記入ください。

- 「バリアフリー」については、平成以降に新築の建物で導入されたように思うが、昭和に建てられた市町村の役所は、入口のスロープ以外は、十分とは言えないと感じる。学校教育では、十分に子どもたちへ周知が図られているが、問題は割定以前。平成6年度より前の18才以上（つまり、『ひとにやさしいまちづくり』の教育を受けていない人）多くは昭和世代の中高年へどう徹底するかにかかっている。ヘルルボニーや石鳥谷の光林寺は昔から障がい者に手を差しのべていてすごい（和尚の講話を聞いたことがあります。）
- ヘルプマークについて知らないでいる人がかなり多いと思うので、もっと周知や理解していただくための施策を増やした方がよいと思う
- 公園整備・・・住民のニーズを踏まえた整備 高齢者向けの交通サービスの改善 子育て世代向けのイベント企画
- 民間の福祉団体と身体障がい者の団体が協力して、商店街や、その周辺を車いすや杖で歩いて、不便と感じたことをまとめ、改善してもらうよう市町村等に要望する活動。

問20

「ひとにやさしいまちづくり」全体について、御意見や御要望等ありましたら御記入ください。

- 商業施設に勤務していますが、目がみえない（完全ではなく弱視？？）という70代の男性がインフォメーションにきて、「介助してほしい」という。が実は見えていて、肩においた手が背中にいき、体をさわり始めるという事例が職員から報告がありました。

駐車場にしても、足が不自由なふりをして身障者ゾーンに車を置き、そのときだけふりをする方もいます。

ユニバーサルデザインの意味を真に理解して、誰もが気持ちよく利用できるようにしていきたいものです。

- 自分自身は障がい者ではないが、昨年膝を骨折して杖なしでは移動できなくなつた際に世の中に溢れるバリアに気が付く事ができた。エレベーター エスカレーターはもちろんのこと、ちょっとした段差ですら大きな障害になる。

この体験は自分自身にとって、ユニバーサルデザインの重要性を自分事として捉える良い機会になった。

- 「ひとにやさしいまちづくり」については、少子高齢者社会と言われていますが、とりわけ高齢者や障がい者の疑似体験は県内市町村でも行われており、このような地道な取り組みを行っていく上で、市町村の保健福祉部局や社会福祉協議会の役割が大きいと考えます。

将来、自分自身が「歳を重ねていく」ことを避けては通れず、当然高齢による体力の低下のほか、不測の事故などによって身体に何らかの障がいを負う可能性は十分考えられることから、特に、教育委員会部局と連携し初等教育の段階から啓蒙を図っていく必要がある考えます。

また、「ひとにやさしい駐車場利用証」に関する公共施設における「専用の案内表示」について、「ひとにやさしい駐車場」と題する専用の案内表示を県と施設管理者または事業者と締結した施設に無償で配布されており、掲示しているところが多く見受けられ、広く普及されていると感じる一方、県のホームページによると「劣化の場合は新しい表示を送付します」あります。

シール式のため環境にもよりますが2年～3年で劣化するため定期的な整備が必要と考えます。例えば、シール式ではなく施設管理者と番号を県側で付したうえで、必要台数分をPDF形式でデータ提供いただければ、費用対効果の側面から見ると有効な手段ではないかと思います。

- 多目的トイレが設置されていても、女子トイレに設置されている場所がありました。介助する側・される側の性別もあるので困る時があります。

また、ヘルプカードに特性や介助して欲しいこと・介助するときのポイントなど、プラスで表記できる商品やアイデアが欲しい。

JRには「障がい者」の考え方を、捉え直して頂きたい。IGRは障がい者単独での利用も半額とし、利用方法も駅員が不在であれば子供料金で券売機で支払う。と、とてもわかりやすい。社員が理解できていない規約は、障がいがあっても無くても不便でしかない。

問20

「ひとにやさしいまちづくり」全体について、御意見や御要望等ありましたら御記入ください。

- 前年のアンケートで、いろいろ知りましたが、あれから一年生活していて、アレッと思う事もなくすごしてきました。駐車場に関しては時々エツと思うことはあっても表立って注意することもできず、自分がなされなく思うこともあります。「だれもが暮らしやすいやさしい町」は、自分にやさしいではありません、そこをはきちがえないことだと思っています。
- 複数の出入り口がある建物では、入り口ごとに車いすがあるととてもありがたいので、公共施設や企業に配置について考慮してもらいたい。
入り口に「車いすあります」などのシールや置き場所を示す表示があるとわかりやすい。
車いすがあっても、スロープが急だったり曲りくねっていると、高齢者や女性が車いすを押すのが大変なので、その辺を考慮して作っていただけるとありがたいです。建設の助成する場合は、スロープの幅や斜度なども指導してほしい。設置するだけで補助金が出るのは違うと思う。
- 「小さな手助け事例」を募集するなどして、皆さんにお知らせして社会のために大きな助力や安心になっている（つながっている）ことを共有したいものです。
- ひとにやさしく、というのは相手の状況がわかっている事が前提と思うので、理解や疑似体験により、それを深めることが必要と思う。学校や公共の場での教育（体験・理解）の機会があればと思う。
- 問3に「利用したことはない」、問5に「参加したことはない」の解答欄が欲しかったです。必須なので仕方なくチェックしました。
- 駐車場のラインを引き直しをしてほしい。消えているところが多い。
DX化推進のためか、案内所の窓口に人がおらず、パソコンが置いてあり、ひとにやさしいまちづくりと逆行している。
これらのアンケートをもとに、何か変化が見られるかと思っても変わってないよう思います。県の予算に変化があるのか？
- 不自由な思いをしている人の苦労を知る機会を作る
- 点字ブロックがあまり有効活用されていないと感じる（はがれても補修されないところが多い）

問20

「ひとにやさしいまちづくり」全体について、御意見や御要望等ありましたら御記入ください。

- 県、市、特に市長、職員、教育、医療従事者、当事者、携わる人が、知識、のアップデート、確認を徹底的にするべき、自分自身のバイアスの確認をしてほしい。

インクルーシブな場を増やす、対話を増やす、社会で子供を育てる考え方が広がりますように、インクルーシブ教育に携わる、野口晃菜さんの講演を積極的に、まずは、県や市の職員、教育者が受けるべき。

市長が理解していない。市長はいらないのではないか。chatGTPの方がより寄り添ってくれる。

本当に小さい頃からの教育が大切

きょうだい児といわれる人達が、自分の人生を生きて行けますように。

- 自分の事と思って施策を推進して下さい。
- 中には、足が悪い人もけっこう多いと思います。車椅子の方だけでなく、そんな人たちも気軽に利用出来るようにすれば良いと思います。
- 県や国でこんな取り組みをしているということをもっと広めた方がいい
- 「ひとにやさしいまちづくり」は「誰もが暮らしやすいまち」だと思います。高齢者になっても、病気や障がいがあっても自立して安心して暮らせる福祉制度や医療制度の充実を要望します。
- 歩道の確保充実をしてほしい
- 皆が助け合う気持ち（心）を持つことが大事だと思う。自分一人で良いと考えないことが大事
- ボランティア自体、高齢化が進んでいるが、引き継げる者がいない。地域に若い人が残れる対策も絶対必要。老々介護では限界がある。
- 店等に入る以前の問題です。歩道や自転車走行部分に段差や亀裂。
点字ブロックが壊れたまま・・・岩手は障がい者が1人で住めないエリアです。
- 人にやさしくて、使いやすくて、充実した施設は、やはり中心部の盛岡が一番進んでいるように感じます。ここでひとつ考えてほしい。これは「盛岡のこと」ばかりの問題でないですよね？
岩手県全体、各市町村の問題として見てほしいと思う。ところによっては、あまりにも格差があると思う。住んでる場所の格差があつてはいけないと思う。（特に福祉について）
- ヘルプマークをどういう人がつけるべきか？持っていてもいいのか？が分からないし、どこに行けばもらえるのかもよく分からない方が多いと思う。

問20

「ひとにやさしいまちづくり」全体について、御意見や御要望等ありましたら御記入ください。

- 障がい者や高齢者だけでなく、疲れた時や荷物がある時は階段を使うのが辛かったりします。
エレベーターとエスカレーターがない建物や探しづらい時、困ってしまう。劇場や駅、官公庁など公共の建物はせめてそれが解消して欲しい。
逆に、視覚障がい者や歩行困難な人が、店舗や駅で介助を受けているのを見ると安心します。
いつ自分が助けが必要な側に回るか分かりません。他人事ではないのです。
- 常に相手の立場になって物事を考え、すべての人々が生きがいをもって暮らせるよう、困った方が近くにいたら、皆で協力して、助けてあげる。(日々出来ることから一つ一つ実行あるのみ)
- 障がい者や高齢者などの弱者に対して、見守りや寄り添いの気持ちがあつても、相手を理解できる知識を持っていないので、適切な対応ができない方が多い。当事者と接する機会がないと理論だけでは理解できるものではない。20年以上、各種弱者へのボランティア活動をしており、当事者に対し偏見や排他的態度の方が多く見受けられる。利己的な人が多い。利他的な人は少ない。
- 「ひとにやさしいまちづくり」というのは、個人的には、安心してなるべく不便を感じずに生活出来る環境だと思っておりますが、岩手県では、地元で出産さえも出来ない地域があります。先ずは、どこでも生み育て、死に場所を選べる岩手県になってほしいものです。
- 岩手県は、盛岡は、ユニバーサルデザインやひとにやさしいものづくりで、まったくピンとこない町。人と交流をしやすい、生きやすい町について話し合うべきです。
- 積雪が多い時、特に町内に限つては道路幅がせまく、直線が短くて通行するのに事故がないようにと祈るばかりです。できれば、あの電柱、電信柱、地下に埋めてあつたら、どれだけ助かるかと、日々思います。道路でのこぼこは、自転車はもちろん車椅子利用の方には気の毒です。
- ヘルプマークもつけた方を見たことがあります。外見からは分からない方でしたので、このような取り組みは大切だと思いました。
- 60代後半には今回のアンケートはむずかしい内容でした。あまり外出がなくなっているためです。
- 子ども～老人まで日常生活で不便に感じないような施設づくりも大切ですが、それを一押ししてあげられる援助の手を差し伸べたいです。
- マリオスへの車椅子利用時で今まで断られたことがなかつた身体障がい者用駐車場区画へとめようとしたら一時的なのでほかの有料駐車場を使ってくださいと言われた。一時的がどれくらいの時間なら許されるのか曖昧なので、何分以上は利用できないなど表記の上、駐車場区画にしないで乗り降り専用にしてほしい。

問20

「ひとにやさしいまちづくり」全体について、御意見や御要望等ありましたら御記入ください。

- SDGsではないが障がい者、小さな子供を連れた親子、高齢者等誰もが取り残される事のない町づくりをもっと普及していくことと心のバリアフリーも必要を感じる
- 高齢者や障がい者が不自由なく利用できるよう、罰則を強化し、安心安全な社会を作つていけば良いと考えます。
- 法令制定だけではなく、具体像（方法・手段等）を県民が理解しなければ『ひとにやさしいまちづくり』とはならないので、周知・徹底を官民協働で行っていくとよいと思う。
- まだまだやさしいとは言いがたいですが、万人に少しでも助け合つてやさしいまちづくりを目指していけたら、県の方々はその方向でちゃんと県民の声を聞いて下さる事を知っています。
- ひとにやさしいまちづくり
必要なことだとは思いますが、可能な限り小学校 幼稚園等の通学路の整備等が優先事項だと思います。
- 令和4年度第7回モニター（R4.10.25）意識調査時、意見提言含め回答しましたが何ら現状調査、改善（アクション）が実施されていないと推測されます、、、
同様意見（提言）になりますが簡記します。新しい公共施設（ハード面）はバリアフリーは構築されています、反面県内にはまだまだ古い施設が多くありエレベーター未設置スロープなし、トイレ不足、案内表示の未設置不足等々多くあるので現状把握し改善対策が必要とおもいます。
また運用面では実例ですが車椅子で来館、2F会議室に出席のためスタッフ2人でまちづくり・・・・疑問が生じた。
大船渡市勤労者施設シーパルで車椅子ごと階段を上ろうとしていた、施設の臨時職員は危険なので注意をしたところ、以前にも皆さんに協力いただき上げて頂きました、と言われ手助けに入ろうとしました所、施設の職員（指定管理責任者）は手助け、解除は不要事故があった場合責任問題になる、手助けはしないでくださいとの事・・・・人を思いやる、人として如何なものか（大船渡市勤労者施設シーパルでの事象）
- 車椅子駐車区画に駐車している車で100均で売っている車椅子ステッカーを購入して健常者しか車に乗っていないのに駐車しているという話をよく聞く。そういうモラル面についての周知をすることも必要だと思う
- 私も障がい者手帳があり、利用証、ヘルプカードも受け取り、最低限の状態で利用させていただいており感謝しております
- 一般住民への啓発を活発にしていく。しくみや方法の具現化と実践化

問20

「ひとにやさしいまちづくり」全体について、御意見や御要望等ありましたら御記入ください。

- 公共施設や公共の場がバリアフリー化したり、通路やトイレなどが改善された事は利用した際に感じていましたが、ひとにやさしいまちづくりの事業であった事は特にわかりませんでした。

また事業者が補助や融資を受けて改修している点も知り得なかったです。

私自身の知識不足なのですが、大切な事業だと思うので、事業の名称が県民に広く知られるといいと思います。

- 車いすなどを利用している方は、もちろんですが、膝や股関節の痛みがあると車の乗降時、ドアを大きく開ける必要があります。公共機関や商業施設の一般的駐車場のスペースは狭くて、車いす専用の駐車場は広くて、いいなー、と思います。目に見える障がいには、優しくても、目に見えない障がいには、あまり優しくないと感じています。

「ひとにやさしいまち」とは、障がいの有無にかかわらず、乳幼児から高齢者、そこで暮らしている全ての人たちに優しくものであって欲しいです。

- ヘルプマークは、精神疾患を持つ人が持っているイメージが付いてしまった。認識を改める機会になりました。

岩手県は都心よりも駐車場も広くとられていて、みんなが住みやすい街なではと比較的感じます。

- 意識レベルの向上が必要です。無関心が良くないです。

- 歩道の整備をお願いします。

- 元、手帳をもっていた

- 私は公共施設の職員ですが、このアンケートで初めて知ることが多かったです。「ひとにやさしいまちづくり」のため、公共施設職員向けのセミナーがあればよいと思います。

- ひとにやさしい駐車場利用証の交付制度を知らなかったので、どのような場合に交付してもらえるか、もう少し広報していただきたいと思います。

- 「ひとにやさしいまちづくり」に限らず、全ての面で県民が取り組めるような、環境整備が必要だと思います。

問20

「ひとにやさしいまちづくり」全体について、御意見や御要望等ありましたら御記入ください。

- 身体障がい者です。車いすで外出の際に路面凹凸などのバリアは、半ばあきらめています。

他にも、世の中は多数派で出来ているので…とあきらめ感が強いです。

全てを使いややすくしてほしいと思っても、費用が掛かることなので難しいからです。

しかし、誰もが暮らしやすい街を願う気持ちは持ち続けています。

「ひとにやさしいまちづくり」

私が困っている街の障壁バリアを、一緒に体験してほしいと思います。

- 人にやさしい駐車場の利用証を以前利用したため大変ありがたい制度であると思う。ただ、利用証を掲示していない人が多く、本当に利用証を交付されている人なのか分からぬ。必ず掲示するように指導すべきと思う。また、車を複数持っている家庭もあるため、2枚程度は交付したほうが利便性は上がると思う

- 今回のアンケートについては、問21の(4)①～⑦にあてはまるものではなく、参考になる意見を回答することができませんでしたが、私ができる事身近で困っている方がいましたら手助けをしたいと思っています。